

新しい時代を支える社会基盤

田原土地区画整理事業完成



区画整理事業記念碑除幕式



都留文科大学前駅舎開業テープカット



道路開通テープカット

『都留市田原土地区画整理事業』 が竣工しました。

平成16年11月15日、田原土地区画整理組合員をはじめ多数の関係者が出席し、工事の完成を祝う竣工式典が盛大に執り行われました。

この事業は、都留文科大学の北側に位置する面積約5.8ヘクタールの田園地区を、新たな都市拠点に相応しい市街地として整備を図る目的で、公共施設（道路・河川・公園など）の整備、商業施設の誘致、宅地の利用増進を図るために起こしたものです。

当初は57名の地権者で組織する都留市田原土地区画整理組合を平成11年に設立し、都留市と協働してまちづくりを担い、平成13年9月から工事に着手しました。組合は、富士急行線新駅の建設、国道139号都留バイパス用地の確保、2箇所の公園建設、街区の整地などを、そして市は幅員10mのメイン道路をはじめその他の区画道路の建設、準用河川（家中川・寺川）の改修、その他水路の改修などを施工し、合わせて約16億円の事業費を費やしました。

都留文科大学を核とした地域づくりから、大学南側の山地部を「都の杜・育みの里」と称して、「教養・文化・体育・自然」などに親しみ育む地域として位置付け、北側の地区は「都留文科大学前駅」を中心としてその周辺を若者中心の賑わいと活力のある街とするため、単に良好な住宅地の整備に留まらず、商業・業務機能が向上するよう土地利用の転進を図りました。

この結果、駅前には大型商業施設が進出し、またこれに連動して既に数社の小規模小売店舗の進出も決定しており、更に地区一体が一層の活性化が見込まれるものと期待されます。



環境に配慮した風力・太陽光発電による街灯・時計



公園



都留文科大学前駅